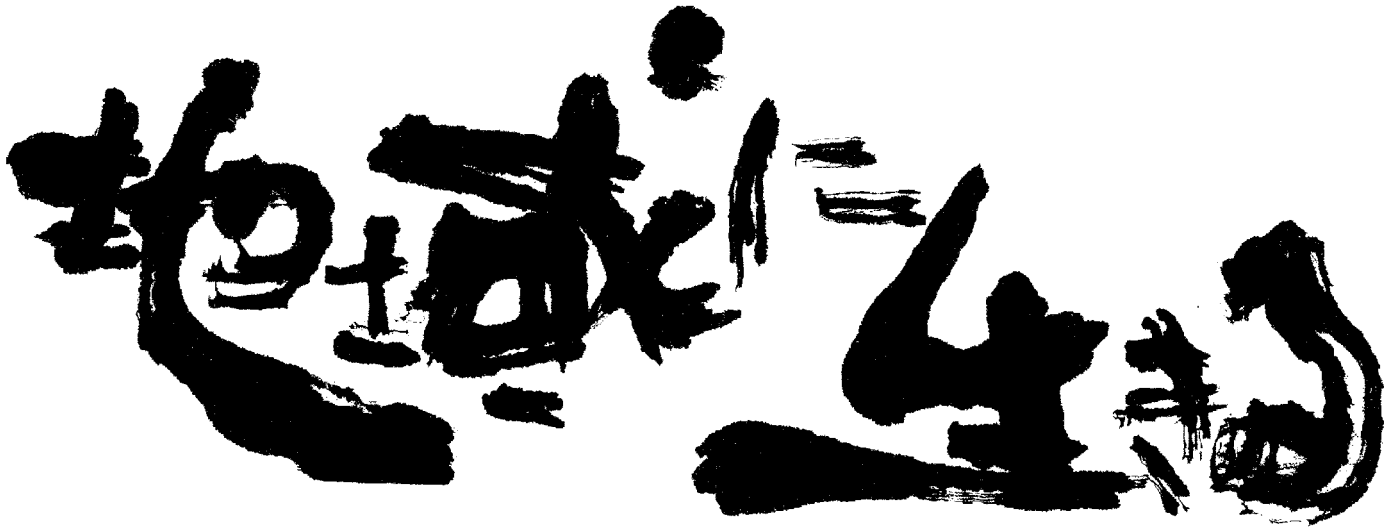


ひゅーまん ねつとわーく



2022年 4月 発行 / 第89号

社会福祉法人 北摂杉の子会

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル3F TEL 072-662-8133 FAX 072-662-8155 info@suginokokai.com



世界自閉症啓発デーイベント 講演会

令和4年度 社会福祉法人北摂杉の子会 年度方針策定にあたって



社会福祉法人北摂杉の子会

理事長 松 上 利 男

1. 社会福祉法人を取り巻く経済・社会的環境

2019年12月初旬に、第1例目の新型コロナウイルス感染者が報告されてから、わずか数か月でパンデミックと言われる世界的な流行となりました。現在もお世界経済社会、人々の暮らしに様々な影響を与え続けています。2022年における日本経済もコロナウイルスの感染状況に大きく影響されますが、大手シンクタンクの予測では、実質GDP成長率は、2%台から4%となっています。しかし、経済予測は、今後のコロナウイルスの感染状況、終息の時期によって、大きく左右されると推測されます。

また、このコロナ禍の中、社会的「弱者」は、多くのリスクを背負わされる状況が続いています。とりわけ障がいのある人は、新型コロナ感染リスクにさらされ、適切な医療支援も受けられないという現状があります。特に障害者支援施設（入所施設）での集団生活を基本とした住環境の課題が浮き彫りとなりました。私ども法人として、新型コロナ感染予防の取り組みを進めてきましたが、今年2月に、障害者支援施設「萩の杜」において、クラスターが発生してしまいました。新型コロナ感染第6波で、大阪府下で87障害者施設（2月9日時点）においてクラスターが発生しています。法人としては、この経験から今後の感染予防対策の見直し、住環境の改善、医療連携等についての検討を進めて参りたいと思います。

また、法人における新型コロナウイルス感染防止対策と同時に、国、厚生労働省への働きかけも重要です。私どもは、一般社団法人全日本自閉症支

援者協会を通して、国、厚生労働省に対して、以下の提言と要望を行っています。

- ①障害支援施設の「小規模化・ユニット化、個室化」の推進に向けた施設改修補助金とユニット加算の創設
- ②強度行動障害のある人のグループホーム等への移行について、移行時加算の創設
- ③重度障害者支援加算の対象区分の拡大
- ④日中支援型グループホーム報酬単価の増額
- ⑤強度行動障害のある人のグループホーム等整備のための施設整備費の増額、強度行動障害のある人の診察、入院が出来る医療環境の整備や医療従事者の研修の推進
- ⑥入院時コミュニケーション支援対象者の拡大と支援者の養成
- ⑦障害者支援施設で新型コロナウイルス感染症のクラスター発生時の施設への医師・看護師等医療職の派遣

以上の提言と要望については、令和4年度も引き続き厚生労働省との協議を続けて参ります。

障害福祉制度については、社会保障審議会障害者部会において、昨年3月から障害者総合支援法改正法施行後3年の見直しの議論がなされています。

その議論の中で、「障害者が希望する地域生活を実現する地域づくり」「社会の変化等に伴う障害児・障害者のニーズへのきめ細やかな対応」「持続可能で質の高い障害福祉サービス等の実現」の3

つの基本的な視点が示されています。

そして、その視点に沿って、以下の具体的な取組が示されています。

障害者が希望する地域生活を実現する地域づくりについては、「障害者が希望する地域生活を実現・継続するための支援の充実」、「地域共生社会の実現」、「医療と福祉の連携の推進」、「精神障害者の地域生活に向けた包括的な支援」が示されています。

社会の変化等に伴う障害児・障害者のニーズへのきめ細やかな対応については、「障害児に対する専門的で質の高い支援体制の構築」、「障害者の多様なニーズに応じた就労の促進」が示されています。

2. 令和4年度方針策定における基本的視点

(1) 第5次5か年中期計画の着実な実行

第4次5か年中期計画の最終年度である令和3年度に、若手・中堅職員を中心とした「第5次5か年中期計画策定プロジェクト」を組織しました。法人理念「地域に生きる」に基づいた新たな「ミッション」「ビジョン」を策定しました。理念「地域に生きる」を実現する新たなミッションとして、「社会と人の変革、新たな価値の創造」「社会（世界）に必要とされる人財の育成」を掲げました。

また、新たなビジョンとして、「杉の子マインド」の土台の上に、「杉の子マインドの浸透」「地域と共に」「suginoko brandの確立」「多様な働き方」「みんなで作る法人」の5つのビジョンを掲げました。

令和4年度は、第5次5か年中期計画を着実に実行・進捗管理できる法人組織の再編を行います。新たに「経営戦略企画室」を創設して、法人第5次5か年中期計画の進捗管理、国の障害者福祉制度改革の動向と地域ニーズの開拓・把握を行うとともに、新規事業の計画立案・実施の進捗管理を行える体制を整えます。また、第5次5か年中期計

画と関連する令和3年度に立ち上げた「キャリアパス策定プロジェクト」「ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）プロジェクト」を継続実施します。

(2) 新型コロナウイルス感染防止対策の強化とBCP（Business Continuity Plan：事業継続計画）の策定

令和4年2月に、「萩の杜」（障害者支援施設）でクラスターが発生しました。法人利用者と職員の健康と暮らしを守るために、引き続き新型コロナウイルス感染防止対策の強化を進めます。また、新型インフルエンザ感染や災害等に対応したBCP策定に取り組めます。

(3) 人材確保と人材（財）育成、労働環境改善の取り組み

令和3年度は、令和4年度の新卒者採用確保計画に基づいて、必要人員の採用内定を行いました。令和3年度の採用活動を分析して、令和5年度の採用計画に基づく採用を実現したいと思います。また、キャリア職員確保の取り組みを継続・強化します。

課題となっている非常勤職員の採用については、引き続き確保に向けた対策を継続するとともに、収支状況を勘案しつつ、常勤職員比率を高めるなどの検討を行います。

また、人材育成については、現在進めている「キャリアパス策定」とともに、職員一人一人の「キャリアデザイン」についての研修・カウンセリングやサポートの在り方についての検討を進めます。

専門職の養成の一つの取り組みとして、法人内組織での人材育成を担う中核的人材と将来他法人・事業所へのコンサルテーションを担う人材の育成の取り組みを始めましたが、令和4年度も継続した育成を行いたいと思います。

令和3年度から実施している新採職員に対するメンター制度の継続と採用2年・3年目の職員に対す

る拡大の検討と実施を行います。合わせて事業所間交流研修の更なる活性化を進め、職員間の交流やキャリアデザインの形成に繋げたいとも考えています。

上記人材確保・育成の計画的な実施・進捗管理を行う「人材確保育成支援室」を創設したいと思います。

(4) 第4次5か年中期計画の継続と未達成事業の継続と新規事業の検討

第4次5か年中期計画である「ジョブサイトよど」(生活介護事業)、「ジェイ・ブランチよど」(就労継続支援事業B型)利用者を対象とした第2期グループホームの令和5年4月の開設を目指します。また、「ジョブサイトひむろ」(生活介護事業)の建て替え整備事業の第1期整備の令和4年度5月の竣工、第2期整備の令和5年度8月の竣工を目指します。

また、高齢・重度化プロジェクトでの議論を受け継ぎ、障害者支援施設「萩の杜」利用者的高齢・重度化に伴う住環境の改善や医療的支援等の充実に向けた仮称「レジデンス萩の杜」(共同生活介護)の整備と「萩の杜」の住環境の改善計画の検討を保護者の方々との連携により進めます。

第5次5か年中期事業計画のビジョンと社会保障審議会障害者部会で示されている「障害者が希望する地域生活を実現する地域づくり」「社会の変化等に伴う障害児・障害者のニーズへのきめ細やかな対応」を踏まえて、以下の事業の検討を行います。

①就労継続支援事業B型事業等利用者工賃の向上と障害者福祉の枠組みを越えた共に働く場創設の検討

②多くの訪問型支援ニーズに応えるための訪問看護ステーションの新規ブランチ開設の検討

③乳幼児・学齢期を通した切れ目のない支援体制の創造・充実に向けた必要とされる支援サービスの検討

(5) 法人財務状況の改善

事業収支改善に向けて、以下の取り組みを進めます。

①相談支援事業については、幼児・学齢期の相談支援事業「wish」を「高槻地域生活総合支援センターぷれいすBe」内に移転し、成人期の相談支援事業「あんだんて」との連携を強化し、幼児・学齢期、青年・成人期にわたる切れ目のない相談支援体制の充実と効率的運営を図ります。

②日中一時支援事業の収支改善、大阪府発達支援拠点事業「will」の収支改善に向けては、引き続き高槻市との協議を進めます。

③就労継続支援事業B型「LaLa-chocolat」については、収支改善計画の進捗管理を行うとともに、法人としての就労継続支援事業B型等利用者の工賃向上の検討を進めます。

④法人収支の進捗管理を行うとともに、各事業所での利用率の改善の取り組みを進めます。

(6) 法人の社会的責任・法令順守・利用者の権利擁護の推進

法人理念「地域に生きる」実現に向けた新たなミッション「社会と人の変革・新たな価値の創造」「社会(世界)に必要とされる人財の育成」に基づいた経営、法令を順守した運営を進めます。また、あらゆる質の向上(マネジメント・財務・環境・支援・パートナーシップ)を目指すとともに、特に利用者の権利擁護の取り組みを推進します。

令和4年度 社会福祉法人 北摂杉の子会 年度方針

1. 第5次5か年中期計画の着実な実行

- (1) 第5次5か年中期計画を着実に実行・進捗管理できる法人組織の再編を行う。
- (2) 「キャリアパス策定プロジェクト」「ICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) プロジェクト」の継続実施を行う。
- (3) 「経営戦略企画室」を創設する。

2. 新型コロナウイルス感染防止対策の強化とBCP (Business Continuity Plan: 事業継続計画) の策定。

3. 人材確保と人材(財)育成、労働環境改善の取り組み。

- (1) 新卒者の採用計画に基づく、確実な採用を行う。
- (2) キャリア職員、非常勤職員採用の取り組みを強化する。
- (3) キャリアパス策定の取り組みを継続する。
- (4) メンター制度の拡充、事業所間交流研修の活性化を図る。
- (5) 「人材確保育成支援室」を創設する。

4. 第4次5か年中期計画の継続と未達成事業の継続と新規事業の検討

- (1) 「ジョブサイトよど」「ジェイ・ランチよど」利用者を対象とした第2期グループホームの令和5年4月開設を目指す。
- (2) 「ジョブサイトひむろ」整備事業の第1期整備(令和4年度5月竣工)、第2期整備(令和5年度8月)竣工を目指す。
- (3) 仮称「レジデンス萩の杜」(共同生活介護)の整備と「萩の杜」の住環境の改善計画を進める。

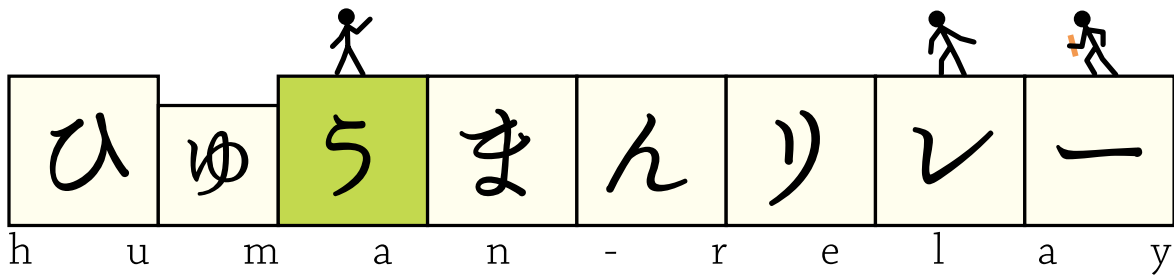
- (4) 就労継続支援事業B型事業等利用者工賃の向上と障害者福祉の枠組みを越えた共に働く場創設の検討を行う。
- (5) 多くの訪問型支援ニーズに応えるための訪問看護ステーションの新規ランチ開設の検討を行う。
- (6) 乳幼児・学齢期を通した切れ目のない支援体制の創造・充実にに向けた必要とされる支援サービスの検討を行う。

5. 法人財務状況の改善

- ① 相談支援事業「wish」(幼児学齢期支援)を「ふれいすBe」内に移転し、「あんだんて」(成人期支援)との連携を強化し、幼児・学齢期、青年・成人期にわたる切れ目のない相談支援体制の充実と効率的運営を図る。
- ② 日中一時支援事業の収支改善、大阪府発達支援拠点事業「will」の収支改善に向けては、引き続き高槻市との協議を進める。
- ③ 就労継続支援事業B型「LaLa-chocolat」については、収支改善計画の進捗管理を行うとともに、就労継続支援事業B型等利用者の工賃向上の検討を行う。
- ④ 法人財務の進捗管理を行うとともに、各事業所での利用率の改善の取り組みを進める。

6. 法人の社会的責任・法令順守・利用者の権利擁護の推進

- ① 法人理念の実現に向けた新たなミッションに基づいた経営、法令を順守した運営を進める。
- ② あらゆる質の向上(マネジメント・財務・環境・支援・パートナーシップ)を目指すとともに、利用者の権利擁護の取り組みを推進する。



ご縁に感謝し、誠実に積み重ねる

～障害福祉との出会いと起業、今まで、そしてこれから～

株式会社インサイト 代表取締役 せきはら ふかし 関原 深さんより

いつも北摂杉の子会様には大変お世話になっております。

今回寄稿のお話を頂戴し、「何を書いてもよい」というお話を頂いたときに、パッと思いついたのが「弊社と関原個人についてお話させて頂こう」ということです。何故なら、弊社起業のきっかけも、今関原個人がこうして元気に過ごしているのも、北摂杉の子会様と深く関わりながら、ここまで来たからです。創業15年の節目で「ずっと一緒にいるのに、まだ書いてもらってないよ」とお声掛け頂いたのも何かのご縁ですので、出会いの頃からを振り返りつつ、今までとこれからについて、少し話させてください。

● 障害福祉との出会いと起業

前職は大手銀行系シンクタンクでコンサルタントとして働いていました。いわゆる「切った張った」の世界でした。一部上場企業や海外ベンチャーと言った派手な案件から、社員数名の小さな企業様との資金繰りや銀行との借金返済リスク折衝といったシビアな案件まで、多く携わらせて頂きました。そこで10年目を目前に、マーケティング技術を活かしてきた自分が、今後どこを活性化させる手伝いをしていきたいのか、その業界を探していた時期でした。

ちょうどその時、ご縁があってお声掛け頂いたのが、前理事長の中村様と現理事長の松上様でした。右も左も全く分からない小生でしたが、厚生労働省の研究事業で「自閉症・発達障害の特性を活かした高付加価値職域開発の研究を一緒にしないか?」とお声掛け頂きました。コンサルタントというよりは、シンクタンク寄りの内容ではあったのですが、出会ってきた顧客数や業種・業態が多く、仕事の種類はたくさん知っているからお役に立てるかも、と思い、研究事業に参加させて頂きました。他に仕事の種類をたくさん知っている人事系、ISO系のコンサルタントにも参加してもらい、特性を活かした高付加価値職域の例を数多く提示しました。その時に得られた知見は、今でも研修で使われており、全国の支援者に納

得頂ける充実したコンテンツとして活躍を続けています。

その研究事業は、B型事業所（ジョブサイトよど）で実践しながらデータを整理していたのですが、その現場では「工賃向上」が主要テーマでした。いつも現場で働く利用者の方々を見ていた中で、その当時全国平均12,222円（H18年）という事実を知りました。「これだけ一所懸命働いて、12千円なのか…」という衝撃は今でも忘れません。そして、支援の専門家であるスタッフの皆様にも、マーケティングや会計のノウハウをお伝えして、工賃を上げていく方法を一緒に検討したら、あっという間に飲み込まれて、すぐに行動に移されて、結果が出ました。「あ、そうか。福祉を中心に勉強してきたから知らないだけで、伝えたらすぐやん。能力高っ!」って率直に感じました。その当時でも全国で就労継続支援事業所は1万件以上（現在はA・B合わせて約17千件）あったと思います。そこが動き出せば、大きな社会のうねりになるのではないかと単純計算で1,000円平均工賃が上がれば、10,000件×1,000円×20人×12か月=24億円のインパクトです。そう思って、前職部長の所へ相談に行き、「障害福祉分野で専門性を高めて応援したい」と伝えました。そうしたら、一笑され、「お前、そんな事ええから、もっと稼げやああ」と、某金融系マンガのような返事。障害福祉業界全体のソーシャルインパクトや、

ご本人・ご家族のQOL（生活の質）を高めることに直結するその仕事の意義が全く伝わらなかったのです。なので、起業しました（笑）。

● 今まで

起業したての頃は、まだ少し残っていた民間企業の顧問やCSR調査、また、社会起業家育成支援といった仕事もありました。しかし、これも偶然なのですが、創業間もなく、先程の調査研究事業の結果について「アメニティ・フォーラム」という業界最大のイベントで発表させて頂く機会を得ました。ここでも右も左も分からない小生でしたが、何とか発表しました。そこで出会った先輩・友人・後輩は、今でも本当に仲良く、いつも勉強させてもらったり、一緒にバカをやったりしています。

これを境に、殆ど全てが障害福祉分野の仕事になりました。そこからは、都道府県から委託を受けて、都道府県下の事業所を一気に20~40件コンサルする、という経営やマーケティングのノウハウをお伝えする仕事が大きな幹となりました。改めて数えてみますと、研修は延べ2,800事業所、コンサルティングも延べ1,100事業所以上を担当させて頂いています。また、実際のはたらく現場を見ている数の多さから、今度は自分たちが中央官庁の研究事業の主体となってお手伝いすることとなり、この数年間では、厚生労働省の研究はもちろん、農林水産省からの農福連携推進のプロモーション支援なども実施しています。

前職からのクセなのかもしれませんが、小生は分からない時は「現場で体験させてもらう」ということを大切にしていました。前職でも焼き肉屋のホールに入ったり、食材センターで肉の仕入れを一緒にやったりしていましたが、北摂杉の子会様では、クロッケの現場もポップコーンの現場もチョコの現場もご一緒させて頂いています。現場にしか答えがない、という経験則なのでしょうか。小生の良い時も悪い時も常に一緒頂き、信用して受け入れてくださった皆様には本当に感謝しております。

そして、弊社創業10周年のとき、改めて中村様・松上様にお祝いの宴席を設けて頂きました。ありがたいお言葉をたくさん頂戴し、本当に楽しく、最高のひと時でした。仕事人冥利とはまさにこのこと。「よし、もっと頑張ろう」、ただ、そう思いました。

● これから

振り返れば、体育会アメフト~大学院生~前職コンサルタントまでで15年強。そして起業して障害福祉事業に携わって、コンサル・研究事業をはじめて凡そ15年で、今年もう50歳になりました。バリバリ働くのは恐らく残り15

年。この残りの15年の節をどう過ごすかを考える機会が増えました。

従来の工賃向上・経営改善が柱であることは変わりありません。現場がちょっとした気づきでどんどん進化していくのを見ているのが楽しい「現場好き」です。

また、近年は、先程も申した通り、厚労省等の研究事業で弊社が現場で感じている仮説を調査で検証し、政策の土台作りが増えています。ここ数年は、年間3~5本は中央官庁の研究支援をしています。大学院時代、研究ばかりしていましたが、自分は「研究好き」なんだ、って改めて思います。

そして、昨年からはオンライン配信支援。自分たちがもうコンサル回せないからということでチャレンジを始めたオンライン活用。早くから良くも悪くも「実践」していたので、その失敗経験がノウハウとなって、コロナ禍でのオンライン配信支援に大きく寄与しています。昨年で30本程度、動画本数ベースでは100本、受講者ベースでは3,000人以上のオンライン配信支援を実施しています。今年はいほぼ倍ぐらいのペースで進んでおり、さらに国際フォーラムのサポートまでして（笑）。「新しいもの好き」です。

というわけで、この3つの好き（現場・研究・新しいもの）を元に、新たに業界に知識・経験のプラットフォームを提供したいと考え、「あすくプロ」というeラーニングと専門家マッチングを兼ねたアプリを作りました。コンサルの中立性を保つために別会社（プロファウンド株）を設立して、紆余曲折ありながらも、昨年夏から月に1回、業界第一人者の方々に登壇頂き、ウェビナー（オンライン配信）を続けています。こちらは本当にじわじわですが、会員登録も伸びてきて。業界で満たされていない「勉強の機会」「知識と経験」「隣の相談相手」を生み出して、かつこの教えあい・学びあいのトラフィックが、障害福祉業界が社会保障だけに頼らないモデル構築の一助になればと思っています。

「ご縁に感謝し、誠実に積み重ねる」

振り返ると、こう動いてきたと思います。そして多くご縁を頂いている中でも、北摂杉の子会様（正確にはご本人、ご家族、スタッフの皆様）とのご縁は本当にありがたく、感謝しかありません。

北摂杉の子会様の理念である「地域に生きる」。これからも理念実現のお手伝いをさせて頂きたく、引き続き、皆様仲良くしてください。コロナが許せば飲みに行きましょう！（笑）。

以上

～地域連携を考えて～



大阪府立高槻支援学校

自立活動・支援部	担当首席	田中裕之	さんより
自立活動・支援部	部長	岡本和子	さんより
地域支援リーディングスタッフ		宇城恵太	さんより

■ はじめに

みなさま、はじめまして。大阪府立高槻支援学校で地域支援を担当しております宇城と申します。このたびは、日ごろより大変お世話になっております〈すぎのこ訪問看護ステーション〉の小林哲理先生とのご縁から、北摂杉の子会さまとのかかわりや連携についてお話しする機会をいただくことができ、大変光栄に思っております。

さて、これまで北摂杉の子会さまと本校とが、日ごろからいかに深くかかわらせていただいているかについて、福祉と学校の連携をテーマに3つの側面からお話していきたいと思っております。

■ 福祉医療関係人材活用事業

まずはじめに、大阪府の事業である「福祉医療関係人材活用事業」での連携についてお話しします。「福祉医療関係人材活用事業」とは、支援学校に在籍する児童生徒の障がいの重度重複化にとまなない、教育場面における課題を、福祉や医療の分野で活躍されている専門家の先生方に相談する事業です。本校はこの事業を実施するにあたり、〈すぎのこ訪問看護ステーション〉の作業療法士 小林哲理先生にお世話になってまいりました。

小学部から高等部までの幅広い年齢の児童生徒が在籍する本校での教育内容は、生活面、教科学習、集団生活、人間関係、進路指導等、多岐に渡っており、私たち教員は日々の学校生活の中の子どものための課題への対応に悩みをもつことも少なくありません。そんな中、小林先生には、箸や

スプーンの使い方、器や鉛筆など道具の使い方や道具を上手く操作するための基本である姿勢の保持など、作業療法にかかわる相談が多く寄せられます。

実際の巡回指導の場面では、手指の運動や認知等の発達に応じた支援の方法や補助具の使い方などについて実演を交えながらわかりやすく教えていただいたり、身近な道具を使って自作された補助具をご紹介いただいたりするので、本当に多くのことを学ばせていただいています。

このような小林先生のご助言には、いつもいくつかのメッセージが込められています。今回はその中で2つのことを紹介します。

ひとつは「その人にとって課題の量や難易度がちょうどよいものであるかどうか」という視点です。私たち教員は、生活の中の道具をうまく使えるようになってほしいという本人や保護者の願いが早く叶えられるよう、時に短い期間で高い課題を設定してしまうことがあります。そのようなケースでは、本人が嫌にならない程度の量で、子どもが達成感を積み上げながら、これからの成長の過程でできるようになることをめざすとといった、子どもの状況に合わせた広角の視野を持ちなおすとよいというご助言をいただきました。

もうひとつは、「発達障がいがある方の視点に立つ」ということです。成人の当事者の方のエピソードで「ある課題を頑張っても次の課題がすぐに与えられ、私はどこまで頑張ればよいのかわからなくなり疲れてしまう」というお話を紹介してくだ

さったことがありました。教育の現場でも、課題が早く終わった児童生徒には次の課題を与えるといった場面がよくあります。お互いが了解した量の課題を終えたら「おわり」の約束をしておくことで、多くの場合はストレスを減らすことができるというお話をわかりやすく教えていただきました。

このように、小林先生の視野の広いアドバイスは、私たち教員が日々の教育実践を重ねる中でも、大きな気づきがあり、大変貴重な機会となっています。

■ 医療的ケア通学支援事業

2つめは、大阪府の「医療的ケア通学支援事業」における北摂杉の子会さまとの関わりについてお伝えします。「医療的ケア通学支援事業」とは、府立学校において、通学中に医療的ケアが必要なため通学に困難を伴う児童生徒の学習機会の保障と、送迎等を行っている保護者の負担の軽減を図るための、大阪府が実施している事業です。具体的には、介護タクシー等に保護者ではなく、事業所の看護師等が同乗し、児童生徒の医療的ケアを実施することにより通学を支援するものです。本事業は令和2年の夏から始まったもので、医療的ケアを必要とする児童生徒、その保護者にとって、大きく期待されている事業です。

ただし、課題も多く、昨年、大阪府で実施された保護者アンケートでは、本事業を利用していない理由として挙げられた項目で「事業者が見つからない」が40%を占めました。そんな中、北摂杉の子会さまには、本校の児童生徒、その保護者に寄り添っていただき、事業開始からほどなく、制度利用を開始することができました。本事業を受けていただくにあたっては、事業所内でも様々な課題があったことと思いますが、本校の児童生徒、その保護者のために思い、受けていただいたことにこの場をお借りして感謝申し上げます。今後も医療的ケアを必要とする児童生徒、保護者の支援体制の構築という観点でも継続して連携を進めてさせていただきたいと思っています。

■ こども相談支援センターwishさまとの連携を通して

3つめは、本校と〈こども相談支援センターwish〉さまとの連携についてお話させていただきます。

現在、発達障がいをはじめとする障がいのある子どもたちへの支援を進めるにあたり、学校と家庭だけでなく、学校と福祉等の関係機関での関係づくりや連携体制の構築が非常に重要な課題となっています。特に、近年では新型コロナウイルス感染症の影響により、要保護児童対策地域協議会に登録されている児童生徒数も増加傾向にあることから、関係機関との情報共有は必要不可欠であり、支援者が変わる場面においても切れめを作らず、円滑な支援をつないでいくことは非常に重要な意味をもっています。

そんな中で、こども相談支援センターwishの相談支援専門員である古東さまには、本校の多くの児童生徒のケースを担当していただき、日ごろから密に連携を取らせていただいております。

これまで連携させていただいた内容は多岐に渡りますが、福祉機関と学校との連携はなかなか進めにくいという課題もある中、一緒に協力してやっという思いを共有し、どうやったらうまくいくのかを前向きに、また、気兼ねなく話し合えるような関係を築かせていただいております。非常に理想的な形で進めることができている。今後とも変わらぬお付き合いを、よろしく願いいたします。

■ おわりに

今回紹介させていただいたお話に加えて、北摂杉の子会さまが運営する通所施設や就労支援の各事業所とのつながりも非常に深く、本校の教育活動を進めるうえでも、重要な役割を担っていただいております。これからも、北摂杉の子会さまとの連携を大切にさせていただきながら、地域の子もたちの各ライフステージに合わせた支援体制を構築していきたいと考えておりますので、より一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



ゴミ屋敷一歩手前からの片付け大作戦 ～ 土間に犬が!! ～

すぎのご訪問看護ステーション 作業療法士

地域医療支援部 統括部長 小林 哲 理

1. はじめに

訪問看護は病気や障がいがありながらも、自立した理想の暮らしができるように、自宅へお伺いする医療サービスです。症状の軽減や生活の技術及び生きていくための技術の獲得、環境調整等々を、ご利用者と一緒に考え実践していきます。今回は、訪問看護の支援で、ゴミ屋敷一歩手前の状態から、犬が家族に加わり、理想の地域生活を手に入れたご利用者の報告です。

2. ご利用者

対象者は、30代の女性（ADHD：注意欠陥多動性障がい）です。緑あふれる山岳地域の大きな古民家に、夫と小学生（当時）の娘、息子の4人で生活しております。職業は研究者で、本の執筆や講義等もされています。育児（息子さんもADHD）もあり、地域の活動も行っているため、多忙を極めています。帰宅はほとんどが21時過ぎ。



初回訪問時

食事の支度等の家事は夫が主として担っていますが、家で資料に目を通したり執筆したりしていると、そのまま朝を迎えるということもあります。時間がないう上に、片付けはあまり得意ではなく、物が溢れています。時間があれば、片付けをしたいという思いをずっと抱えていました。

3. 訪問当初の様子

訪問当初は、足の踏み場もないほど物が散乱。子どもの過ごすスペースがありませんでした。片付けの時間を確保することも大変でした。専門業者に依頼することも検討したのですが、専門業者に依頼するには多額の費用がかかることがわかりました。また、一度片付いてもリバウンドが心配でした。

片付けを考えるに際しては、どうしても目の前に散乱した物に目が行きがちです。訪問看護としては、部屋を片付けることはあくまでも手段であり、片づけてどうしたいのか?「理想の生活」を思い浮かべることが大事だと考えました。

4. 理想の生活

理想の生活。それは田舎のおしゃれな古民家で、のびのびと子育てをし、地域の人々と交流、週末は家族で過ごすこと。普段は家族の皆がそれぞれ好きなことを追求できるよう助け合っていきたいということでした。そして、「のびのびと子育て」「地域の人と交流」…そういったことをさらに具体的に考えていきました。

はじめに描いた理想の生活は、この古民家に娘が友達を招いて遊ぶことです。娘は来年小学校卒業で、中学では仲の良い友達と別の学区になってしまいます。これまでは、家が散らかっていたため、家に友達を呼ぶことができませんでした。そこで、居間に友達を招待できるように、部屋を片付けることを当面の目標にしました。

5. 片付け作戦①「娘の友達を居間に呼ぶ」

床には、子どもの持ち物や工作作品、学校関連の配布物、バッグ、本や新聞の平積み、プリンターやテレビ等機器の配線、リモコン等々様々な物が置いてあります。とにかく物が多いです。

まず、必要なものと不要なものをわける。必要なもので床に直置きしているものは、棚へ収納するようにしました。

そこで、私は「1か月くらい使用していないもの、触れていないものは捨てましょう」「判断できないものは保留箱に入れておいて、一週間使わなければこれも捨てましょう」と(心を鬼にして)具体的にアドバイスしました。

片付けに際しては、家族それぞれの個人的な物が散らかっているのでも、家族の協力も必要でした。片付けを通して、家族のコミュニケーションも進みました。例えば、子どもの過去のテストやノート、工作物などについては、子どもと思い出話をしながら、子どもの意見も聞きながら片づけを進めました。夫とも話し合いながら進めました。夫も研究者なので、新聞や資料は保管しておく必要があり、何をどれだけ処分するのか、何度も話し合いを重ねました。

3か月後、本やバッグ、子どもたちの大事な物の行き場は決まり、棚に収納。最終的にスペースを取っていた夫の新聞の平積みは、一部を捨てて一部を別の部屋に移動しました。またコード類を結束バンドでまとめてスッキリ。見事、居間の片付けに成功し、娘の友達を家に呼ぶことができました。



作戦① ビフォー



作戦① アフター

6. 片付け作戦②「あこがれだった犬を飼う作戦」

犬を家族に迎えたい! 犬と家で一緒に過ごしたい! ペットショップで一目ぼれして、どうしてもわが家の土間に迎えたいと考えました。そこで、次のターゲットとして、玄関(土間)を整理することにしました。しかし、玄関は難関。広い玄関なので、買った日用品等がそのままデンと構えています。不要な物や(粗大)ゴミも、すぐに捨てられるように玄関に置いてあります。また、家族4人分の靴が散乱しています。また、古民家の土間は湿気が多いため管理が難しく、手間がかかります。

すぐに犬を飼うのは難しいのでは? と思い、私は「スペースやコスト、世話をする時間的なやりくり等検討した後に…」と話しました。

ところが翌週訪問すると、「飼(買)っちゃいました〜」と満面の笑顔のご利用者です。

飼うと宣言したそのときから土間の片付けに火が付きまします。一週間で不要なものを処分。散乱して

いた靴はラックに納めました。すのこを敷いて、湿気対策。入口で靴を脱ぎ、奥の間まですのこ上を渡れるようにしました。犬のスペースにも水分の吸収シートを敷き詰めました。



作戦② ビフォー(玄関のゴミ)



作戦② ビフォー 土間



作戦② アフター 土間に犬が!

7. 現在のご様子

犬を含めた計5人の家族で仲良く暮らしています。憧れであった犬のいる暮らしを実現させて、4回もテレビ出演をしています。

ご本人は「最近片付けや掃除が楽しいです」と話しています。そして、更なる理想の暮らしの実現に向けて、地域で移動図書館をはじめたり、地域に開放された資料室・研究室をつくらうとされたりしています。



地域に開放予定の研究室

8. おわりに

ごみ屋敷一歩手前の生活から、障がい特性に合わせた支援をしていくことで、自分で生活の工夫をするようになりました。さらに、片付けや整理整頓に対する苦手意識も変化しました。

訪問看護が、地域に生きることを第一線で支援しているということを実感できる事例でした。

な書き方なら分かってもらえるか」「どのような方法なら選択してもらえるか」などを普段のご様子から調べ、Aさんに個別支援計画の内容を確認してもらう専用資料を作成しました。

確認用の資料作成には下記のようなAさんの普段のご様子を参考にしました。

- ①簡単な漢字を含む文字で書かれた献立表は読めている。
- ②イラストがあれば選択給食の2択を選んでいる。
- ③文字だけより、写真やイラストのある情報の方が理解しやすい。
- ④言葉だけの長時間のやり取りは難しそう。

これらの情報を基に作成したAさんへの確認用資料が写真②になります。



まず、Aさんがいつも話されている「飛行場で働くには…」という言葉の真意について確認するために「飛行場で働きたい」のか「飛行場から旅行に行きたい」の2択で質問しました。

Aさんにはその質問について言葉+指差しで回答してもらっています。

その他にも、個別支援計画(案)の中に記載されているAさんの希望(目標)を実現するために必要となるであろう事柄についても、資料を見てもらいながら、Aさんが「できる」「やりたい」と思えるかどうかをお聞きしていきました。



■ 支援の結果

Aさんへの意思確認を行う前は「Aさんの希望(目標)は飛行場で働くことだ」と支援員は思っていたのですが、実際に確認用の資料を使い聞いてみたところ、「飛行場で働く」より、「飛行場から旅行に行く」ことを選ばれていました。

また、ジョブサイトよどの中での過ごしについても、仕事(「受注作業をしてくれますか?」)についての質問にだけ拒否を示され、仕事より余暇に希望を持たれていることも分かりました。

言葉だけでは支援員が拾いきれていなかったAさんの本当の思いを、目で見て分かる資料を用いて質問することで、より確認し易くなった結果なのではないかと思えます。

その後Aさんから確認が取れた内容を改めて整理し、個別支援計画の本計画書を作成しました。同時にAさんに見てもらう用の個別支援計画も作成し、Aさんご本人へも改めてご説明するようにしました。



支援計画の内容は、ご本人の第一希望である余暇を中心にし、旅行のお金を稼ぐためにお仕事にも取り組むといった形でまとめています。

■ まとめ

ご利用者のための計画である個別支援計画を、今回「Aさんが主役の計画」として作成することができました。

勿論、支援員が考えたAさんへの質問の仕方に不十分な点もあったはずなので、この結果がAさんの意思を100%反映できたわけではないかもしれません。ですが、これまでは「AさんのことをAさん抜きに決めている」状況だったので、そこに問題意識を持ち、Aさんへの意思確認に繋がれたという意味では、とても良い取り組みになったと感じています。

ご利用者ごとに意思の確認方法などは異なってきますし、そこに支援の難しさもあると思いますが、法人が理念として掲げている「地域に生きる」を実現していくためにも、ご利用者の意思を確認する支援というものを今後も継続したいと考えています。



グループホームへの 個別的な移行支援

レジデンスよど 三津屋北ホーム サービス管理責任者
社会福祉士・介護福祉士 まる お あき こ 丸 尾 明 子

■ グループホームへの個別的な移行支援

令和2年9月に開所した障害者グループホーム「レジデンスよど 三津屋北ホーム」は、当法人の日中活動支援事業所の家族会の中で、“将来、自分達の子どものグループホーム入居を希望する”有志の方々と当法人が連携して立ち上げたグループホームです。入居予定のご利用者の中には、グループホームについて全く知らなかったり、グループホームに入居することを希望していなかったり、ずっと実家で生活したいという方もおられました。

入居ご利用者10名の平均障害支援区分は5.5、知的障害・自閉スペクトラム症と診断されている方々です。“グループホームに入居する”という大きな変化を前にして、見通しのもち辛さから不安・不調が起り、生活リズムが乱れたり、行動障害が表れる頻度が増える懸念がありました。そのため、入居前に、ご利用者一人ひとりに合わせた支援 ①グループホームについての説明・見学会・体験宿泊、②自閉スペクトラム症とご利用者個人の特性に基づいた支援 ③グループホームでの楽しみを作るといった移行支援を計画・実施しました。

今回行なったグループホームへの移行支援のうち、3名の方の事例を紹介します。

Aさん(20代男性)は、グループホームに入居することについては「いつかは親と離れて暮らす」という認識をされていました。Aさんは、不安だったり嫌な気持ちを破壊行為、他害行為で表現されることがあるので、グループホーム入居について曖昧に説明すると不安感が高まってしまう懸念がありました。

そこで、Aさんにはグループホーム入居について

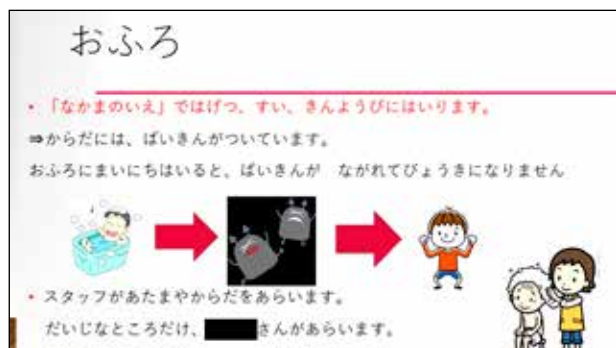
「いつから、どんな風に生活が変わるのか」を具体的に示せるようになってから、現地への見学会と事前説明会を実施することにしました。説明会では、Aさんが気になること(グループホーム支援員の名前、グループホームでの活動スケジュール、自宅には帰れるのか、日中活動の事業所からの帰りに毎日寄っていた喫茶店でのティータイムはどのようなか等)を写真やイラストを交えた文書を作成し、視覚的に伝えました。その後、見学会の提案も受け入れて下さり、居室見学に来ていただきました。



ご本人の楽しみのひとつである“喫茶店に行くこと”は、毎日行くのはグループホーム支援員の体制上難しいので、週1回金曜日に“1週間グループホームでの生活を頑張った週末の楽しみ”として、近くの喫茶店に行くことを提案すると、了承してくださいました。現在も週1回、スタッフとの喫茶店での時間を楽しまれています。こうしてグループホームでの生活にも慣れて下さり、現在は不調時には大きな破壊行為・他害行為も無く、代わりに『入浴せず、夕食を食べず、早めに寝る』ということで、一人で解決できるパターンになっています。

Bさん(30代男性)は、ご家族がBさんに「皆いつかは実家を出て生活するんだよ」と数年前から重ね重ね話されていたので、グループホームに入居すること自体には納得されていました。Bさんは、生活の中に決め事がたくさんあり、それがグループホームではどうなるのか?を不安に思われていました。そこで、入居前に、自宅ですべてのことがグループホームではどう変更になるのか説明する場を設定しました。

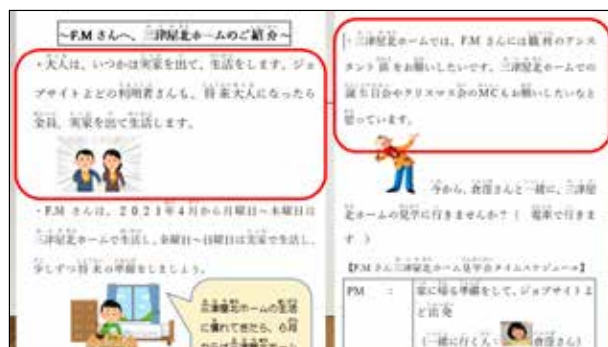
Bさんの自宅での朝食は毎朝麺類で、昼食・夕食も決まったメニューのローテーションでした。自宅と同じメニューをグループホームで提供し続けるのは難しいので、できる範囲でBさんの希望に沿ったメニューの提案。(朝食は、麺類+野菜ジュース、昼食・夕食は苦手な食材は取り除き、小さな麺類を付ける…等)また、“入浴は週1回”と決めておられたのですが、入浴の大切さ(お風呂に入ると、ばい菌が流れて病気になりません)を伝え、入居後も何度か面談を重ね、現在では毎日入浴されています。



Bさんは、行動障害もあり向精神薬を服用されていましたが「グループホームでは眠前薬は飲まない」というBさん本人からの意思表示があり、グループホームでは服薬しないようになりました。精神面での崩れを心配しましたが、グループホームは個室ということで、自宅に比べて刺激の少ない環境であるためか、減薬しても崩れることなく落ち着いて生活されています。入居前に、ご本人としっかりグループホームでのルールをすり合わせしたうえで入居していただいたので、日中活動の事業所を休むことなく通えるようになり、ご本人の生活の質が向上しました。

Cさん(30代男性)は、グループホーム入居間際まで、グループホームについて全く知らされていないようで、ご家族も入居を拒否するかどうかも全く分からないという状況でした。

事前に支援員とご家族で打ち合わせを行い、Cさんには、理由や根拠を説明することが大切なのではないかとの結論にいたり、「グループホームになぜ入居するのか?」という理由を強調し、また入居後のモチベーションとなる活動もあわせて、資料を用いて視覚的に説明しました。



説明した際は、グループホームでの生活を急に提案されたことを非常に驚かれ、「ドキドキする」や「やめとく」と拒否的な発言がありましたが、ご家族の協力もあって見学と体験宿泊に来て下さりました。ご本人の気持ちを聞き取るうちに「パソコンが欲しい」や「BSアンテナをつけて欲しい」という要求も出てきて、それに対応していくと、Cさんにとってのグループホームでの楽しみができ、予定日から入居していただくことができました。入居直後は週4泊だった宿泊日を、入居3か月後からは週5泊に増やしています。

“想像することが苦手”という特性がある自閉スペクトラム症の方にとって、事前の見学会や体験宿泊は、見通しを持つためには特に有効です。また、グループホームでの楽しみを提案することにより、納得していただいたうえでのスムーズな移行ができ、後に利用日を増やす結果に繋がっているのだと思います。

三津屋北ホームでは現在も移行支援を続けているご利用者がおられますので、成功した事例を参考にし、取り組みを続けていきます。



新規ご利用者受け入れと 支援の再構築

ジョブサイトひむろ

支援員・社会福祉士 船 曳 佳 奈

■ はじめに

ジョブサイトひむろは生活介護事業を提供している事業所です。主として重度の知的障がいのある方、自閉スペクトラム症で行動面に課題のある方を対象とし、個別化されたアセスメントをもとにして、日課の組み立てや環境設定を行い、安心して活動できる支援を提供しています。今回報告するのは、新規ご利用者の受け入れと支援の再構築の事例についてです。

■ 事例

年齢：18歳(当時)、男性

障がい名：重度の知的障がい 自閉スペクトラム症

障害支援区分：6

行動援護点数：18点

状況：支援学校卒業後、令和2年3月よりジョブサイトひむろでの利用を開始され、利用開始時よりほぼ毎日泣く、自傷(手を強く噛む)、他害行為(つねる、指を捻る、噛みつこうとする)が見られました。その原因が分かりづらく、突発的な他害行為も多い状態でした。令和2年7月には攻撃的な噛みつき行為が増え、大きな事故報告が4件、立て続けに起こりました。

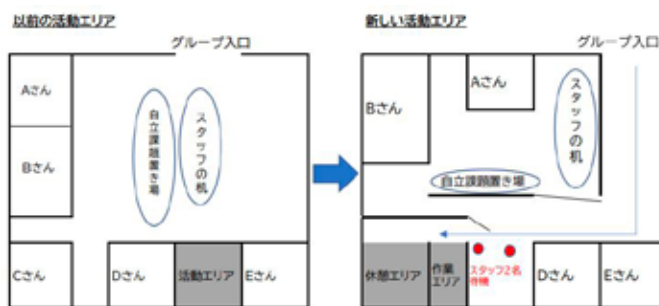
■ 対応の経過と取り組みについて

活動場所や活動内容も定着していなかったこともあり、ご本人に合った支援が行えていませんでした。そのため、まずは支援の振り返りとご本人の特性や環境の整理を行いました。その結果、こうした行動の背景には、ご本人の特性と環境とのミ

スマッチ(音や視覚的な刺激が多い、イレギュラーなことが多い、見通しが持ちづらい等)が多くあることがわかりました。そこで、以下の取り組みを行いました。

①グループの視覚的情報の整理と活動エリアの再設定

以前の活動エリアでは、他のご利用者やスタッフの動き、いろいろな物が目に入り刺激となってしまう。隣のご利用者との距離が近くトラブルを誘発するリスクが高い。苦手なご利用者の声が聞こえる。他のご利用者との動線が重なる。休憩エリアと作業エリアが同じで切り替えが難しいといった課題が見られました。そこで、周りが気にならないよう、活動エリアを一番奥の個室へ変更。移動時は必ず他のスペースの扉を閉める。気になるものには目隠しをする。パーティションを利用し、動線上から気になるものが見えないような配置にするなどの変更を実施しました。



グループレイアウトの変更

②活動エリア内の工夫

休憩エリアと作業エリアを別に設定し、眩しいのが苦手、暗い方が落ち着くといったご家族からの情報をもとに、休憩エリアにはカーテンや暗幕を設

定。また、暑いのが苦手なので、エリア内に扇風機、温度・湿度計を設置しました。切り替えが苦手といったご本人の特性から、休憩と作業の場所を変えることで切り替えがしやすいようにしました。休憩と作業エリアを隣同士にすることで、移動時のトラブル誘発リスクの軽減も図っています。

③スケジュール提示の変更

以前はスケジュールを半日提示していましたが、先の子定が気に入り、待てないといったご様子が見られたため、新しいスケジュールは2～3個の子定の提示に変更。トイレや作業など活動後はお茶を飲み休憩エリアへ戻るといった流れを作り、切り替えができるようにしました。また、指示されることが苦手で、タイミングが合わないと不調になってしまう場面が多く見られたことから、ご本人のタイミングに合わせてスケジュールを提示するよう変更しています。

④動線の整理を行い、移動時の刺激を減らす

同じフロアのご利用者の動きや大きな声が刺激になっておられたため、移動の際には動線整理を行い、パーティションを設置し視覚的な刺激も遮断しています。

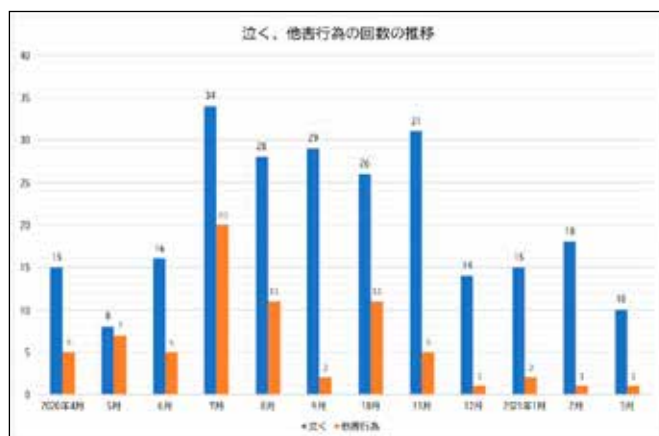
⑤その他

常に2名で対応し、関わる支援者を絞り統一した支援が行えるようにしています。また、対面でのやりとりをできるだけなくし、他害行為が起こる場面を作らないようにし、ご本人への刺激の軽減も図っています。職員対象の勉強会でも事例を取り上げ、ご本人の状態を把握してもらうことにより、事業所全体で課題を共有し、動線整理やフォロー体制の協力を得ることができました。定期通院にも同行させていただき、ご本人の情報の提供と服薬の相談を行うとともに、ご家族や関係機関との連絡を密にとることで、ご本人の生活全体を把握することに努めています。

■ 改善点

個別スペースをご本人が安心して過ごせる場所と位置づけ、何かあれば戻れるようになっています。また、ご本人の動きを毎日記録し、その動きに合わせて誘導することで、ある程度活動をパターン化し、タイミングが合わずに不調になってしまうことが減りました。また、ご本人の一日の活動の流れも定着しています。

動線を整理することで、音や視覚的な刺激が軽減され、移動時の不調、他害行為が大幅に減少しています。また、他害行為が起こってしまった際は、同じ状況を作らないよう対応を変更し、それを統一したことで、他害行為のパターン化を防ぐことができ、施設内での他害行為の回数や泣かれる回数が大幅に減りました。



■ 今後に支援について

現在は楽しんでジョブサイトひむろに通所していただくことを目標に、①月に数回外出活動を実施。②訪問看護で実施されている簡単なクッキングを日中の活動としても取り入れる等々、ご本人にとって楽しい活動を増やして動機づけを行っています。また、iPhoneを使用したコミュニケーション支援にも取り組んでいます。

今回の事例を通して、ご本人の特性に立ち返って支援を組み立てていくことの大切さを改めて感じました。今後ご家族や関係機関と連携しながら、ご本人が安心して毎日を過ごしていただけるよう支援していきたいと思っています。

山根和史さんへのエール

令和4年4月1日より、私ども法人の相談支援・人材育成研修部 山根和史部長が、厚生労働省社会援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害児者支援室発達障害施策調整官として厚労省で勤務することになりました。令和2年度から始まった大阪府「重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業」（令和2年度はモデル事業、当法人受託事業）の運営と他法人・事業所で行動障害者支援を担う中核的人材育成のためのコンサルテーションを担って頂きました。自閉症・行動障害者支援のエキスパートとして、今後の活躍に期待しています。



相談支援・人材育成研修部の山根和史と申します。松上理事長からご紹介いただきましたが、3月末で北摂杉の子会を退職し、厚生労働省で発達障害施策調整官として勤務することとなりました。

北摂杉の子会では、入所施設萩の杜から始まり大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさかを経て、相談支援・人材育成研修部と多くの経験をさせていただきました。人材育成研修室では施設コンサルテーション事業の担当として地域の支援者育成に携わり

り多くの支援者と関わることがとても良い経験でした。

施設コンサルテーションについては、申し込みが年々増加しておりニーズの高まりを感じます。これは強度行動障害支援者養成研修等の普及に伴い多くの事業所がこれまで大切にしてきた理念に加え、対人支援専門職としての知識や技術が無いと地域の障害のある方を支えることが難しいと気づき、支援現場も変ろうしている現われでないかと感じています。また、標準的な支援について学ぶことで共通の知識を持つことが共通言語作りにつながり、支援者同士のコミュニケーションが活発になることも学ぶことができました。こうした地域の支援者同士のネットワーク作りを後押しすることが共生社会への有意義な取り組みとなると考えております。

今後も支援現場で学んだことや経験を大切に微力ながら努力していきたいと思っております。

最後になりましたが、松上理事長をはじめ暖かく送り出していただいた職員のみなさまに感謝申し上げますとともに北摂杉の子会の益々の発展をお祈り申し上げます。

2022年3月31日

社会福祉法人北摂杉の子会
相談支援・人材育成研修部

部長 山根和史



杉の子 いいね!

レッツ
クリエイティブ
アート!

当法人のご利用者には、様々な特技をお持ちの方や表現活動(絵画・詞・陶芸等)を行っている方がたくさんおられます。このコーナーでは、そういった活動を紹介しています。たくさんの読者に「いいね!」「共感した!」という想いを届けたいと考えています。

児童発達支援部では、それぞれの事業所でご作品を制作していただいています。

Link

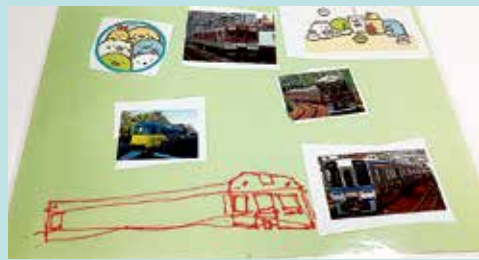
蜘蛛の巣を
作ろう



蜘蛛の糸を
避けてゴール
できるか

Linkでは、療育室に蜘蛛の糸をはって、それを避けて通る遊びをしました。蜘蛛の巣は通りにくいように工夫して子どもたちが作りました。

an



anでは、年度末の最後の療育で、オリジナルの下敷き制作をしました。

will



グループ療育 メッセージカード



スノードームづくり

willでは、オリジナルのスノードームを作ったり、グループ療育で卒業するお友だちへのメッセージカード作りをしました。

あゆみ



1月 今年最初の描き初め



2月 鬼は外!



3月 おひなさまとおだいらさま



3月 桜

あゆみでは季節の行事に合わせて様々な制作活動に取り組んでいます。



引き続き、子どもたちの「おもしろい」「うまくできた」「楽しい」表現活動を行っていきます。

掲示板コーナー

(令和3年12月から令和4年2月まで)

法人事業部 掲示板

12月	行 事
1日	法人事業部管理会議
3日	医療連携推進室会議
	京都女子大学千葉ゼミ説明会
8日	大阪市立大学内説明会
9日	京都女子大学鈴木ゼミ説明会
10日	関西学院大学松岡ゼミ説明会
10・24日	運営会議
6・21日	経営会議
10日	新人研修 コミュニケーション、チームビルディングについて
15日	龍谷大学山田ゼミ説明会
17日	大阪府立大学内説明会
24日	権利擁護虐待防止委員会
27日	関西福祉科学大学内説明会

1月	行 事
5日	法人事業部管理会議
6・12・14・28日	運営会議

1月	行 事
7日	医療連携推進室会議
11・24日	経営会議
12日	龍谷大学樽井ゼミ説明会
14日	新人研修 障がい福祉制度の概要・個別支援計画の考え方について

2月	行 事
4日	医療連携推進室会議
4・25日	運営会議
5日	令和3年度 第4回法人研修 <ul style="list-style-type: none"> ・第5次五か年中期計画報告 ・PECSの実践報告 あさがくナビ就職博
7・21日	経営会議
10・22日	法人事業部管理会議
15日	FUKUSHI MEETS オンライン合同説明会
25日	権利擁護虐待防止委員会

(河辺 記)

法人採用説明会



萩の杜 掲示板



毎年恒例のクリスマス会をしました。ご利用者も仮装バッチリです！



お正月はおせちのメニューでした。



園芸活動を始めました。～ふれっとなさはら～



(野条 記)

ジョブサイトひむろ掲示板

第2回 ジョブサイトひむろ 2021 いっしょにアート展



ジョブサイトひむろでは、「どんな人がどんな空間で、どんな人と創作する時間を、どんなふう楽しんだのかを知りたくなる」をコンセプトに、年に1度「いっしょにアート展」を開催しています。今年で2回目です。集まった作品の中から「なんか好き大賞」を投票。投票数の多かった作品は、関西電力主催「かんでんコラボアート」に応募しています。今年は、応募総数396点の中から入選作品18点に、登間佐俊孝さんの作品「私の机の上の物をデッサン」が選ばれました。

救急救命講習 高槻消防署



高槻消防署から救急救命講習に来ていただきました。3時間の講習では、応急手当の方法、心肺蘇生の方法、気道異物の除去方法など、実技を交え学びました。



ジョブサイトひむろ 建て替え工事



昨年12月螺旋階段の撤去から工事が始まりました。1期棟工事も順調に進んでいます。エレベーターの扉の色や床の色、カーテンの色など、スタッフ全員で投票して決めるなど、新しいジョブサイトひむろの完成に、スタッフ一同ワクワクしています。



12月10日



1月26日



2月15日



2月18日



3月2日



3月3日 3階の様子



(河原 記)

アクトおおさか Topics!!

【公開講座（支援者対象応用）のご報告】

1月19日（水）に公開講座（支援者対象応用）を開催しましたので報告いたします。

今回は『働くADHDママ ～経理をやってみた～』というテーマで、発達障がいの当事者の方にご講演いただきました。WEBセミナーとして開催し、当日は147名と多くの方にご参加いただきました。

講演では、社会人になってから診断を受けられ(ASD, ADHD)、事務職として働く中で、ご自身の得意・苦手なこと（障がい特性）に合った工夫方法を考え、試行錯誤しながら職場やご家庭で実践されてきた経験談をお話いただきました。講演終了後には、今年度の支援者対象基礎講座でご講演いただいた、医療法人サチカム会三国丘病院の河口剛院長に動画にてコメントをちょうだいしました。

受講後アンケートでは、参加者の満足度が大変高いことが表れる結果となりました（大変参考になったが約7割、参考になったが約3割）。自由記述欄では、「当事者だからこそ発信できる具体的なエピソードを聞くことができ勉強になった」「当事者の方がこれまで体験されてきた悩みや葛藤等を直接聞くことができる貴重な時間になりました」といった感想が多く見られました。発達障がいの当事者の方一人ひとりの人生の歩みはもちろん違いますが、今回の経験談を通して発達障がいへの理解が深まったことが分かる結果でした。

また、「自己決定の大切さを改めて考える機会になった」「環境によって困り事やその度合いが大きく変わるということが分かった」等、参加された支援者の皆様が日々の支援を振り返り、明日からの支援のヒントを得る機会にもなったようです。河口先生はコメントの中で、「ご自身で工夫をして頑張ってきたこと、周りに配慮を求めたこと等、取捨選択してきた過程が素晴らしい」と仰っていました。それはご自身の得意や苦手を知り整理する自己理解の過程とも言えます。支援者にはその自己理解の過程に寄り添い、伴走する姿勢が求められるのではないのでしょうか。

今回は貴重なご講演をいただき、ありがとうございました。

講演中の様子



河口院長

児童発達支援部

a n



お人形で体洗いの練習中★



みんなでスライム作り♪

Link



使う物をチェックリストを見ながら準備して、クッキングスタート



順番上手に待てるよ

will



アンパンマン レジスター



クリスマス 工作



グループ療育 トークタイム



一緒にパズル(合体させよう)

あゆみ



屋上で凧揚げをしたよ!



節分に、鬼のでんでん太鼓をつくったよ!



片クリーム遊び、楽しいな～

(薬師寺 記)

ジョブサイトよど/ジェイ・ブランチよど掲示板

ジョブサイトよど

運動頑張っています！



クッキング☆



慰労会♪



創作活動！ひなまつり☆



ジェイブランチよど

～リモート慰労会、楽しみました♪～



(山口 記)

Happy Merry X'mas



(松本 記)

ジョブジョイント (JJ) おおさか・ジョブジョイントおおさか -たかつきランチ- 掲示板

12月	行	事
3日	企業実習 (介護施設での清掃)	
4日	土曜クラブ 働くチカラPROJECT 就活のハジメ# 2 「コミュニケーション講座①」 働くチカラPROJECT 就活のススム# 5 「自己PR・ガクチカを作ろう」	
6日	企業実習 (化粧品会社での軽作業)	
18日	土曜クラブ/家族ミーティング@たかつきランチ OB忘年会 (web)	
22日	しゅみナビ	
1月	行	事
8日	土曜クラブ/シュミラボ (OB会) 働くチカラPROJECT 就活のハジメ# 3 「コミュニケーション講座②」	
15日	ジョブジョイントおおさか実践報告会	
17日	企業実習 (障がい者福祉施設での清掃)	
29日	土曜クラブ	
31日	企業実習 (病院での事務補助)	
2月	行	事
7日	企業実習 (施設管理会社での事務補助)	
17日	避難訓練 (地震) @ジョブジョイントおおさか	
19日	土曜クラブ/シュミラボ (OB会) 働くチカラPROJECT 就活のハジメ# 4 「ストレスマネジメント」 働くチカラPROJECT 就活のススム# 6 「企業研究講座」	

(本部 記)

ジョブジョイントおおさか実践報告会

今年で4回目となるジョブジョイントおおさか実践報告会。コロナの感染拡大が気になる中での開催でしたが、無事に対面で実施することができました。第一部は、よこはま発達クリニックの佐々木先生から『発達障がいの特性理解～就労支援に期待すること～』というタイトルでご講演をいただき、第二部の実践報告では、ジョブジョイントおおさかのOB3名から発表していただきました。佐々木先生のお話も、OBの皆さんや支援スタッフのお話もリアルでとても勉強になりました。ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました。



避難訓練 (地震)

ジョブジョイントおおさかでは年に2回避難訓練を行っています。今回は地震を想定した避難訓練で、ご利用者の皆さんと避難先の小学校まで実際に歩きました。振り返りでは「ブロック塀の近くを通ると危ないかも」「もう少し近い避難場所があったらいい」などの意見もあがり、今一度防災について考える機会になりました。



新成人のお祝い

新成人の皆さん、おめでとうございます！
日々のプログラムや就活だけでなく、就職後にもよく使うボールペンをお祝いの品としてお渡ししました。たくさん使っていただけると嬉しいです。



クリスマスリースを作りました!



年初めはみんなで書初め♪



バレンタイン・ホワイトデーもみんなで頑張りました!

いつもご愛顧賜り誠にありがとうございます。今年のバレンタイン・ホワイトデーも無事に終わられました。来年度も引き続きよろしくお願いたします♪



(山田 記)

訪問看護ステーション



砂場遊び



デジタルアート



自立課題に取り組んでいるところです



スライム遊び

4月まで京阪バスに
広告を出しております



(小林 記)

萩の杜家族会 掲示板

12月	行	事
	コロナ禍のため、イオン黄色レシートキャンペーン・安全対策委員会 ・重度高齢化プロジェクトは中止 (イオン黄色レシートキャンペーンは関連店での買い物協力を依頼)	
16日	サークル萩(今城塚公民館にて)	
1月	行	事
	コロナ禍のため、イオン黄色レシートキャンペーン・会長会会議・サークル萩 ・重度高齢化プロジェクトは中止 (イオン黄色レシートキャンペーンは関連店での買い物協力を依頼)	
2月	行	事
	コロナ禍のため、イオン黄色レシートキャンペーン・家族会定例会・サークル萩 ・安全対策委員会・重度高齢化プロジェクトは中止 (イオン黄色レシートキャンペーンは関連店での買い物協力を依頼)	
9日	家族会役員会(現代劇場にて) ①新役員について	

(飯塚 記)

2022年2月9日(水)本来なら2月の定例会だったのですが、オミクロン株拡大のため、中止となりました。同日同室で役員会を4月の総会にむけて行いました。萩の杜は開所してから23年たち、役員達の平均年齢も80才を越えてきました。

世代交替の時期がきており、若い人達にどのようにバトンタッチしていったらよいのかが最大の課題になっています。



ジョブサイトひむろ家族会 掲示板

12月	行	事
7日	経営協議会（東会長Zoomにて出席）	
24日	クリスマスプレゼント手配・LaLaショコラ（事務局役員）	
1月	行	事
17日	家族会会長会（開催中止）	
26日	役員改選集計 取りまとめ（会長・副会長）	
2月	行	事
2日	第3回役員会（高槻現代劇場206号室） <議題> ・ジョブサイトひむろ移転作業進捗状況・活動状況（森田施設長） ・令和4年度役員改選について 役員改選投票結果を踏まえて次年度役員候補を決定 ・家族会の運営関連 ・会計報告 ・家族会会費について ・2月23日定例会 コロナ禍の状況を鑑み中止 ・令和4年度の定期総会4月26日 仮日程 開催については感染状況次第	
9日	北摂杉の子会後援会 臨時役員会（東会長Zoomにて出席）	
21日	経営協議会（東会長Zoomにて出席）	

（升本 記）

ジョブサイトよど家族会 & ジェイ・ブランチよど家族会 掲示板

12月	行	事
15日	ジョブサイトよどのGH（グループホーム）を検討する会（ジョブサイトよど1階） 法人出席：佐々木理事、下部長、原田副部長、丸尾主任 技建設計：2名 GH土地：河端 第2期GH：6家族（欠席：1家族） 世話人：永井	
18日	ジョブサイトよど家族会、ジェイ・ブランチよど家族会 合同役員会（ジョブサイトよど1階）	
1月	行	事
17日	家族会会長会 開催中止	
22日	ジョブサイトよど家族会、ジェイ・ブランチよど家族会 合同役員会（ジョブサイトよど1階）	
2月	行	事
9日	北摂杉の子会後援会 臨時役員会 Zoomにて出席：永井会長、玉木会長	
16日	ジョブサイトよどのGH（グループホーム）を検討する会（淀川区民センター） 法人出席：佐々木理事、下部長、原田副部長、丸尾主任 技建設計：2名 第2期GH：6家族（欠席：1家族） 世話人：永井	

（永井 記）

ふれいすBe家族会 掲示版

12月	行	事
		家族会行事なし
9日		役員会（参加者8名）感染対策対応の上 役員選出名簿における順番決めについて
1月	行	事
13日		役員会（参加者9名）感染対策対応の上 総会への準備
2月	行	事
24日		役員会（参加者8名）感染対策対応の上 総会日程の予定変更 総会への準備

(大門 記)

自閉症スペクトラム児・者を支援する親の会 オアシス 掲示版

12月	行	事
5日		DDnet第17回年次大会（オンライン開催） 訪問型支援の新しい可能性を考える 大会長：松上 利男 氏 『北摂杉の子会の「訪問看護の実践」』シンポジウム オンライン参加
6日		オアシス役員会 Zoom開催 会員へ情報配信 内閣府障がい者週間オンラインセミナー 障がい児支援の現場の質の向上に向けた「外部評価」について
11日		おやじの会
1月	行	事
17日		オアシス役員会 ミスタードーナツ十三店
27日		ペアレント・メンター事業 豊能町の小学校保護者会にZoomにて活動
30日		JKA助成金学習相談事業 同時配信 場所：ドーンセンター （主催）一般社団法人日本自閉症協会（共催）大阪自閉スペクトラム症協会（後援）オアシス 「就職に不安がある大学生への支援を考える～エンカレッジの就労支援を通して～」窪 貴志 氏 「共に地域で支えられながら働く事」坂根 匡宣 氏 座談会
2月	行	事
4日		公開講座（主催）大阪自閉スペクトラム症協会（共催）オアシス 場所：ドーンセンター 「自閉スペクトラム症、発達障がい児・者の問題行動の理解と求められる支援」中山 清司 氏
7日		オアシス役員会 Zoom開催
初旬		オアシス機関紙「いるか通信」発送 印刷・帳作業をジョブサイトひむろさんへ委託
22日		一般公開 新澤伸子先生を囲んでの座談会 参加者9名 場所：ドーンセンター テーマ「進路選択について」お子様の3年先、5年先、少し先の将来のイメージについて 参加者が話し合い、先生からアドバイスをいただきました。
25日		大阪府発達障がい団体ネットワーク会会合 Zoom開催

(福田 記)

講演会をYouTube
にて同時発信（ライブ
リット発信）しました。





北摂杉の子会 後援会 掲示板



本会の活動に対して多くの方々や企業、団体、また法人家族会の皆様のご支援を頂き、誠にありがとうございます。今後ともより一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2月末現在の増減・累計

個人：86名 団体：2 寄付：42名
資金 会費：1,112,000円 寄付：368,000円
合計：1,480,000円

<報告事項>

I 会員数の動態と資金について

	個人会員数	納入率	団体会員数	納入率	寄付
4月	477	(5%)	33	(0%)	0
5月	484	(21%)	34	(15%)	10
6月	526	(32%)	34	(18%)	2
7月	527	(36%)	34	(21%)	1
8月	531	(39%)	34	(21%)	0
9月	532	(42%)	34	(21%)	2
10月	532	(42%)	34	(21%)	0
11月	533	(47%)	34	(24%)	9
12月	557	(53%)	35	(29%)	11
1月	563	(55%)	35	(51%)	5
2月	563	(55%)	35	(57%)	2

II 今年度2月末までに会費、寄付金合わせまして1,480,000円の資金を頂戴いたしました。

ご支援、ご協力に感謝申し上げます。

III 臨時役員会を開催（2022年2月9日）し下記の案件について確認。

1. 今年度の会員動態と資金の推移について
2. その他

- 役員の退任の報告
- 各家族会の活動の報告
- 家族会、法人職員、関係団体への加入依頼の報告
- 会則の変更の確認
- 次回定例役員会の開催予定

日時：2022年5月16日（月）14：00～15：30

場所：法人本部およびZoom

（沖本 記）

寄付と後援会入会のお願い

社会福祉法人「北摂杉の子会」後援会の趣旨に賛同され、ご支援して下さる方々の寄付及び後援会への入会をお願い申し上げます。寄付金と後援会費は法人を支援するための資金とさせていただきます。お振込みは右記口座まで。もしくは同封の振込用紙をご利用下さい。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

既に今年度、後援会会費をいただいた方には重ねてのご案内になりますことを、どうかご容赦ください。

記

1. 寄付金(注)
2. 個人会員 年間一口 2,000円
3. 団体会員 年間一口 10,000円

郵便振込口座 北摂杉の子会
00920-8-90859

(注) 任意団体である後援会の領収書では確定申告の際に寄付金控除を受けることは出来ませんので、寄付金控除の出来る領収書をご希望の方は法人の下記口座にお振込み願います。

銀行名：三菱UFJ銀行 支店名 高槻支店 口座名：社会福祉法人北摂杉の子会
口座番号：5085555

～ 皆様の温かいご支援に 感謝いたします ～



□ 法人へのご寄附に感謝いたします。(令和3年12月1日～令和4年2月28日)

井田 進 富田一彦 奥 健介 河端輝子 植松芳哲 久保いづみ 蛭 豊 匿名希望1名

□ 後援会入会と会費納入に感謝いたします。(令和3年12月1日～令和4年2月28日)

藤下 正 山内 稔 三宅敏行 広井良平 広井 泉 村本順子 堀 久志 堀 智子 三輪田康志
柿田妙子 八里いよ 秋山三智 西田博文 東井はるみ 林美知代 粕谷彩子 粕谷靖子 登間佐孝男
山田一雄 山田康栄 山田晃大 森 泰雄 大森ふさ子 高原正義 新田利秀 角 芳春 板倉 勝
佐藤和男 佐藤敏子 佐藤由美 秋永 隆 秋永香織 谷村剛史 谷村佳拓 谷村美喜 古山和史 上野恭代
長尾さゆり 丹藤真由美 矢橋 文 増淵紘子 熊本好修 佐脇吉記 三輪 智 白倉俊雄 仁戸田照彦
黒崎智之 黒崎香織 黒崎誓太 澤田隆生 植松芳哲 植松登志子 植松正機 植松信機 植松里枝
植松小遥 植松小絢 小林美代子 北村久美子 加藤 浩 古門貞利 奥 健介 奥美貴子 岩井光男
若松産業有限会社 中村英一 共和運輸株式会社 株式会社 二井清治建築研究所
寺田軌道株式会社 代表取締役 寺田秀喜 エムズエンジニアリング株式会社
トヨタカローラ新大阪株式会社 名神茨木店 有限会社 北摂初田 島珈琲株式会社
医療法人桜峰会 香川クリニック 株式会社Lean on Me 医療法人光愛会 光愛病院
特定非営利活動法人 ふれあいぽっぽ 匿名希望10名

□ 後援会へのご寄付に感謝いたします。(令和3年12月1日～令和4年2月28日)

井上知子 本荘真理 木下光代 西田博文 中村敬子 大森ふさ子 津田敬子 田中宏明 上野恭代
松岡洋市 鈴木孝雄 山田英生 藤岡 宏 藤岡紀子 奥 健介 奥美貴子 匿名2名

□ 家族会への物品のご提供に感謝いたします。(令和3年12月1日～令和4年2月28日)

岡田公子 黒瀬美和子

□ 家族会へのボランティアに感謝いたします。(令和3年12月1日～令和4年2月28日)

佐々木映世

(敬称略 順不同)

発行人 社会福祉法人 北摂杉の子会
理事長 松上 利男

発行所 北摂杉の子会

住 所 大阪府高槻市城北町1丁目6-8

発行日 2022年4月30日

定価100円

施設住所一覧

- **社会福祉法人 北摂杉の子会 法人事業部 人材育成研修室**
(法人独自の公益事業〈研修・講師派遣・コンサルテーション〉)
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル3F
TEL (072)662-8133 FAX (072)662-8155
 - **障がい者支援施設 萩の杜** (施設入所支援・生活介護)
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072)699-0099 FAX (072)699-0130
 - **萩の杜 日中活動支援センターふれっとなさはら** (生活介護)
〒569-1041 高槻市奈佐原2丁目4番25号
 - **萩の杜ショートステイセンター ぶれす** (短期入所・日中一時支援)
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072)699-0844 FAX (072)699-0199
 - **グループホーム とんだ** (共同生活援助)
〒569-0814 高槻市富田町5-13-14 101号室
 - **レジデンスなさはら** (共同生活援助)
〒569-1041 高槻市奈佐原3丁目15番1号
 - **レジデンスなさはら2丁目** (共同生活援助)
〒569-1041 高槻市奈佐原2丁目1番8号
 - **レジデンスなさはらもとまち** (共同生活援助)
〒569-1041 高槻市奈佐原2丁目4番26号
 - **ジョブサイトひむろ** (生活介護)
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27
TEL (072)697-2234 FAX (072)697-2222
 - **高槻地域生活総合支援センター ぶれいすBe** (生活介護・就労継続支援B型・短期入所・日中一時支援)
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)681-4700 FAX (072)681-4900
〈短期入所〉 TEL (072)681-4720
 - **生活支援センター あんだんて** (指定特定相談支援・指定一般相談支援事業)
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)681-4755 FAX (072)681-4900
 - **大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか** (発達障害者支援センター事業)
〒540-0026 大阪市中央区内本町1丁目2-13
谷四ばんらいビル10F
TEL (06)6966-1313 FAX (06)6966-1531
 - **児童デイサービスセンター an** (児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号
TEL (06)4862-5454 FAX (06)4862-5466
 - **こども発達支援センター will** (児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル2F
TEL (072)662-0100 FAX (072)662-0056
 - **こども相談支援センター wish** (指定特定相談支援・指定障害児相談支援事業)
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)668-4776 FAX (072)681-4900
 - **自閉症療育センター Link** (児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒573-0032 枚方市岡東町24-10 アイエス枚方ビル3F
TEL (072)841-2411 FAX (072)841-2412
 - **ジョブサイトよど** (生活介護)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06)6838-7007 FAX (06)6838-7015
 - **ジェイ・ランチよど** (就労継続支援B型)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目3番10号
TEL (06)6303-9430 FAX (06)6195-3710
 - **レジデンスよど三津屋北ホーム** (共同生活援助)
〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北1丁目9番6号
 - **ジョブジョイントおおさか** (自立訓練〈生活訓練〉・就労移行支援)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号
TEL (06)6100-0150 FAX (06)6309-3007
 - **ジョブジョイントおおさか たかつきランチ** (自立訓練〈生活訓練〉・就労移行支援)
〒569-0072 高槻市京口町9番3号 関西産業ビル1F・4F
TEL (072)668-1123 FAX (072)668-1165
 - **すぎのご訪問看護ステーション** (訪問看護)
〒569-0071 高槻市城北町1丁目7-16 リーベン城北401
TEL (072)668-2670 FAX (072)668-2671
 - **発達支援あゆみ** (豊中市児童発達支援事業所あゆみ) (個別療育・障害児一時預り事業・単独通所)
〒560-0054 豊中市桜の町3丁目12番10号
単独通所 あゆみ
TEL (06)6841-1551 FAX (06)6841-9467
個別療育 カラフル・一時預かり りーふ
TEL (06)6398-7755 FAX (06)6841-9467
- 【法人自主製品店舗】**
- **「LaLa-chocolat (ララ ショコラ) /TAKATSUKI」**
就労継続支援B型
〒569-0071 高槻市城北町2丁目13番2号
TEL (072)668-5055 FAX (072)668-5081
営業時間：10：00～19：00(日・祝休み)
- ※■は行政よりの委託事業